

ジャパンカップ出走予定外国馬プロフィール

◆ カプリ (CAPRI) = アイルランド

牡 4 歳・芦毛 (アイルランド産 2014 年 2 月 7 日生まれ)

父:Galileo = 母:Dialafara (母の父:Anabaa)

馬主 : デリック・スミス氏、ジョン・マグニア夫人、マイケル・テイバー氏

調教師 : エイダン・オブライエン

騎手 : ライアン・ムーア

通算成績: 15 戦 6 勝、2 着 1 回、3 着 2 回

総獲得賞金: 約 2 億 3,590 万円

主な戦績:	'17 英セントレジャー(英 G1)	1 着
	'17 愛ダービー(愛 G1)	1 着
	'16 ベレスフォードステークス(愛 G2)	1 着
	'18 アレッジドステークス(愛 G3)	1 着
	'16 クリテリウムドサンクルー(仏 G1)	3 着

昨年のアイダホに続いてアイルランドのエイダン・オブライエン調教師がジャパンカップに送るカプリは、2017 年の愛ダービーと英セントレジャーを制したヨーロッパのクラシックウイナーです。

生産はアイルランドのリンチ・バグス社&カマス・パーク・スタッド。クールモアグループのデリック・スミス氏、ジョン・マグニア夫人およびマイケル・テイバー氏が共有しています。

父はヨーロッパ生産界を代表するガリレオ、母のダイアラファラはアガ・カーン殿下の生産馬で、フランスで 4 戦 1 勝。2010 年 12 月にドーヴィルのセールで、17 万 5,000 ユーロ(当時約 2,330 万円)で売却されました。祖母のディアミリナはマルレ賞(仏 G2、芝 2,400m)など重賞 2 勝。その祖母から母系をさらに 4 代遡ると、愛オークス馬のパンパリーナがおり、この一族からは愛 2000 ギニー馬のパンパポール、愛セントレジャーを勝ったアークティックオウル、安田記念優勝のアサクサデンエンやドバイワールドカップ、有馬記念を制したヴィクトワールピサも出ています。

カプリは 2 歳 7 月にシーミー・ヘファナン騎手で、カラの芝 1,400m の直線競馬でデビュー。ここは勝ったアーカダに半馬身届かずの 2 着でしたが、2 戦目のゴールウェイの未勝利戦、芝 1,670m で初勝利を挙げます。この時は舌を縛って出走、2 馬身半差の 2 着に退けたリキンドリングは昨年のメルボルンカップを優勝しています。3 戦目にリストッドのエルグランセニョールステークス(ティペラリー、芝 1,490m)に駒を進めたカプリは、スタート後程なくして先頭に立ってそのまま 2 馬身差で勝利すると、4 戦目で重賞初挑戦となったベレスフォードステークス(カラ、愛 G2、芝 1,600m)へ向かいます。ここは不良馬場でしたが、ライアン・ムーア騎手が乗って同厩舎のユカタンに 3/4 馬身差をつけて 1 番人気に応え、3 連勝を飾りました。その後距離を延ばしてフランスのクリテリウムドサンクルー(サンクルー、仏 G1、芝 2,000m)に遠征します。鞍上がヘファナン騎手に戻って中団を進んだカプリでしたが、

伸びを欠いてヴァルトガイストから1馬身半差の3着。2着は先月のコーフィールドカップを制したベストソリューションでした。こうして2歳時を5戦3勝、2着1回、3着1回で終えます。

3歳の昨年は4月のバリーサックスステークス(レパーズタウン、愛 G3、芝 2,000m)から始動。前年のベレスフォードステークスを勝っていたカプリは他馬より重い 60.5kg で出走し、リキンドリングから4馬身 1/4 差の4着でした。翌月の愛ダービートライアルステークス(レパーズタウン、愛 G3、芝 2,000m)はコルム・オドノヒュー騎手が騎乗し、先頭争いに加わったものの勝馬から短アタマ差で入線しました。クラックスマンが1番人気となった英ダービー(エプソム、英 G1、芝 2,410m)はヘファナン騎手で18頭立ての8番人気で出走。中団を進みましたが、最後は伸びを欠いてウイングスオブイーグルスから3馬身 3/4 差の6着に終わりました。

そして、迎えた7月の愛ダービー(カラ、愛 G1、芝 2,400m)はエイダン・オブライエン厩舎から出走した5頭を含む9頭が参戦しました。人気は英ダービー優勝のウイングスオブイーグルス、同3着のクラックスマン、ヴァルトガイスト、そしてカプリの順。レースは先行策から抜け出したカプリに、クラックスマンとウイングスオブイーグルスが襲い掛かってゴール前は混戦となりましたが、カプリがクビ差粘って優勝。良馬場の優勝タイムは2分35秒4で、ヘファナン騎手とのコンビはここまできとなります。

短い夏休みを挟んで出走した英セントレジャー(ドンカスター、英 G1、芝 2,900m)は厩舎主戦のムーア騎手が騎乗して堂々の1番人気で出走しました。11頭立ての好位を進んだカプリは残り600mで先頭に立って後続を完封。1970年のニジンスキー以来、48年ぶりの愛ダービー馬による英セントレジャー制覇を成し遂げました。この時に2着したクリスタルオーシャンは今年の“キングジョージ”で2着になるなど中長距離路線のトップホースに成長し、3着だったストラディバリウスもロイヤルアスコットのゴールドカップを制して長距離王に輝くなど破った馬のレベルも高い一戦でした。

しかし、中1週での参戦となった凱旋門賞(シャンティイ、仏 G1、芝 2,400m)は強行軍の疲れもあったのか、早々と後退。勝ったエネイブルから2秒差のブービーの17着で競馬を終えました。

今年も現役を続けたカプリは直近に行われた英チャンピオンステークスまで4戦して1勝。初戦となった4月のアレジッドステークス(ネース、愛 G3、芝 2,000m)はムーア騎手の騎乗で5頭立てのレースを引っ張り、後続の追撃をアタマ差封じました。こうして、幸先の良いスタートを切りましたが、肩を痛めて約5か月のインターバルを挟みます。復帰戦となった9月のフォワ賞(パリロンシャン、仏 G2、芝 2,400m)は昨年の凱旋門賞でコンビを組んだウェイン・ローダン騎手で6頭立ての5着に敗退。先手を取った日本のクリンチャーの後ろにつけますが、最後は力なく後退しました。

新生パリロンシャン競馬場を舞台に昨年に続く参戦となった凱旋門賞は19頭立て。前哨戦の敗戦によって日本の発売でも単勝70.1倍の11番人気とまったく人気がありませんでしたが、初コンビとなったドナカ・オブライエン騎手が先行策を取って同厩舎のネルソンの2番手を追走。直線で先頭に立って見せ場を作り、連覇を達成したエネイブルから3馬身 1/4 差の5着に踏ん張って復調気配を感じさせました。

来日前の一戦となった10月20日の英チャンピオンステークス(アスコット、英 G1、芝 1,990m)は、これが4度目の騎乗となったムーア騎手を迎え、前走同様に前々での競馬から抜け出しを図りますが、クラックスマンにかかわされると脚色が鈍り、最後は4着で入線しました。圧勝したクラックスマンからは7馬身半差がありましたが、2着のクリスタルオーシャンとは1馬身半差に踏みとどまりました。

今年は前述のアレジッドステークスの1勝のみで、最新のワールドベストレースホースランキングで

はランキング外となりましたが、クラックスマンがウインクスと並ぶ 130 で世界トップ、クリスタルオーシャンが 126 で 6 位タイであることを考えると決して実力を侮ることはできません。これまで 6 勝の内、愛ダービーを除く 5 つは稍重～不良でのもの。時計のかかる競馬が理想でしょう。



Photo by The Racing Post, Patrick McCann
2018 年アレジッドステークス(愛 G3)

ジャパンカップ出走予定外国馬関係者プロフィール

■ カプリ (CAPRI)

● 馬主:デリック・スミス氏、ジョン・マグニア夫人、マイケル・テイバー氏 (Derrick Smith, Mrs John Magnier, Michael Tabor)

スーザン・マグニア夫人は、故ヴィンセント・オブライエン調教師(現在のクールモアを背負って立つエイダン・オブライエン調教師とは姻戚関係なし)の愛娘で、クールモア牧場の経営者、ジョン・マグニア氏の夫人。ジョン・マグニア氏はイギリス人のロバート・サングスター氏と共同で 1975 年にクールモア牧場を購入し、世界最大級の牧場へと導いた功労者。サングスター氏が去ると、マグニア氏はイギリス出身のマイケル・テイバー氏を新たなパートナーに世界戦略を進める。その後、イギリス人のデリック・スミス氏がメンバーに加わり、クールモアの所属馬はスミス氏、マグニア夫人、テイバー氏の 3 人で共同所有の形を取ることが多い。

クールモアグループはアイルランドを拠点に、アメリカとオーストラリアに支場を持つ。その屋台骨を支えた種牡馬にはサドラーズウェルズとデインヒルがおり、現在はガリレオ、モンジュー、ハイシャパラルらが数多くの G1 馬を輩出。アイルランドでの所有馬は大半をエイダン・オブライエンが手掛け、フランスではアンドレ・ファールブル、アメリカではトッド・プレッチャーら著名調教師へ預託される。

● 調教師: エイダン・オブライエン (Aidan O'Brien)

1969 年 10 月 16 日、アイルランドのウェックスフォード州生まれ、調教師の家庭に育ち、ジェームズ・ボルジャー調教師に師事して 23 歳で障害調教師となり、1993/94 年シーズンから 5 季連続でアイルランドのリーディングタイトルを獲得。また、アマチュア障害騎手としても 1993/94 年にリーディングに輝いている。クールモアの専属調教師となったのは、ヴィンセント・オブライエン調教師の引退を受けてのことで、平地でもアイルランド(賞金順)で 1999 年から毎年、イギリス(賞金順)で 2001、02、07、08、16、17 年にリーディングタイトルを獲得。アンマリー夫人はアイルランドの障害リーディングトレーナー、長男ジョセフは騎手から調教師に転身して昨年のメルボルンカップや今年の愛ダービーを優勝、さらにその弟のドナカは 2016 年のアイルランドの見習騎手リーディングで、今年は全体のリーディングでもトップに立った。

初の G1 勝利は 1996 年にデザートキングで制したアイルランドのナショナルステークス。ここまでクラシックタイトルだけでも英 2000 ギニー9 勝、英 1000 ギニー4 勝、英ダービー6 勝、英オークス7 勝、英セントレジャー6 勝、愛 2000 ギニー11 勝、愛 1000 ギニー7 勝、愛ダービー12 勝、愛オークス5 勝、仏 2000 ギニー4 勝、仏 1000 ギニー1 勝と各国で数多く獲得。さらに、“キングジョージ”4 勝、凱旋門賞 2 勝、ブリーダーズカップターフ 6 勝のほか、イタリア、カナダ、アラブ首長国連邦、香港、オーストラリアなど世界各国で 300 以上の G1 タイトルを手中にしている。昨年はアメリカの故ロバート・フランケル調教師が 2003 年に樹立したシーズン G1 最多勝記録「25」を更新する「28」もの G1 タイトルを手にした。

今年もここまでサクソンウォリアーで英 2000 ギニー、フォーエバートウギャザーで英オークス、キューガーデNZで英セントレジャーなどクラシックタイトルを制覇したほか、アメリカでもベルモントオークスを勝つなど G1・14 勝。アイルランドでは平地シーズンで新記録となる 152 勝を挙げた。

これまで日本ではジャパンカップで管理馬を 3 頭出走させ、2004 年パワーズコート、10 年ジョシュアツリーでともに 10 着、昨年はアイダホで 5 着。

● 騎手：ライアン・ムーア (Ryan Moore)

1983 年 9 月 18 日、イギリス・バークシャー生まれ。父ギャリーは元障害騎手で引退後調教師、祖父も元調教師、弟のジェイミーは障害騎手として活躍している。2000 年 5 月に障害戦でデビューして初勝利を飾ると、2003 年に見習騎手リーディングのタイトルを獲得。その後は 2004～14 年までトップ 7 圏内につけ、2006、08、09 年にリーディングタイトルを獲得した。

2006 年にマイケル・スタウト調教師管理のノットナウケイトで英インターナショナルステークスを制して G1 初勝利。以降、クラシックは 2010 年ワークフォース、13 年ルーラーオブザワールドで英ダービー 2 勝、10 年スノーフェアリー、16 年マインディングで英オークス 2 勝、さらに英 2000 ギニー 2 勝、英 1000 ギニー 3 勝を挙げているほか、“キングジョージ”は 09 年コンデユイト、16 年ハイランドリールで 2 勝。国外でも 2010 年ワークフォース、16 年ファウンドによる凱旋門賞 2 勝を始め、08・09 年コンデユイト、13 年マジシャン、15 年ファウンドでブリーダーズカップターフ 4 勝、プロテクショニストとのコンビで勝った 14 年メルボルンカップなど世界各国で G1 タイトルを量産している。

近年主戦を務めるエイダン・オブライエン厩舎の所属馬で今年も世界各地を転戦。キューガーデNZとのコンビでパリ大賞を制すると、英セントレジャーも優勝し、昨年のカプリに続く連覇を飾った。そのほかアメリカのベルモントオークスなど、ここまで G1 を 8 勝。イギリスの平地シーズンでは 394 戦 75 勝でリーディングは 13 位だった。

2004 年の京王杯スプリングカップで初来日し、10・11 年にスノーフェアリーでエリザベス女王杯を連覇。2010 年にはワールドスーパージョッキーズシリーズで総合優勝を果たした。また、近年は短期免許を取得して日本でも騎乗しており、2013 年にジェンティルドンナでジャパンカップ、アジアエクスプレスで朝日杯フューチュリティステークスを、モーリスで 15 年マイルチャンピオンシップ、16 年天皇賞(秋)を、ゴールドドリームで昨年のチャンピオンズカップを優勝。ここまで JRA では重賞 14 勝を含む通算 587 戦 119 勝。日本馬との活躍は国内に留まらず、ジェンティルドンナで 2014 年ドバイシーマクラシック、モーリスで 15 年香港マイル、16 年香港カップ、リアルスティールで 16 年ドバイターフを勝利している。